

横浜市旭区・瀬谷区薬業連携研修会での腎機能評価に関する理解度調査

○^{1,7}近藤 一成、²多田 純平、²松崎 貴志、³堤 瑛子、³東垂水 裕和、³小串 興平、⁴今淵 瞳、⁴櫻井 学、^{5,6}中原 茂之、^{1,6}久保田 充明、^{7,8}日向 彰
¹カワセ薬局、²聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 薬剤部、³横浜旭中央総合病院 薬剤部、
⁴神奈川県立がんセンター 薬剤科、⁵平本薬局、⁶瀬谷区薬剤師会、⁷旭区薬剤師会、⁸あさひ薬局ANNEX

背景

神奈川県横浜市旭区・瀬谷区薬剤師会は、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、横浜旭中央総合病院、神奈川県立がんセンターと薬業連携研修会を共同主催している。腎領域に関しては毎年1回開催し、2024年度で3回目を迎えた。

目的

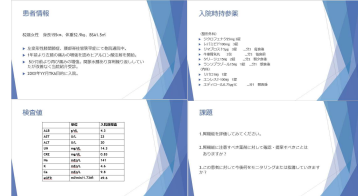
薬業連携を進める中で病院と保険薬局の薬剤師が共通認識を持って業務にあたる必要がある。今回、適切な腎機能評価を行えるよう薬業連携研修会を開催し理解度調査を行った。

方法・結果

◆ 2025年2月、横浜市旭区・瀬谷区薬業連携研修会にて下記の通り実施した。

講演内容	時間	担当者
講演①「CKD教育外来について」	15分	聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院
講演②「腎機能評価について」	15分	横浜旭中央総合病院
症例ディスカッション 「CKD患者の腎機能評価と薬物治療について一緒に考えよう！」	50分	横浜旭中央総合病院

症例提示での使用スライド

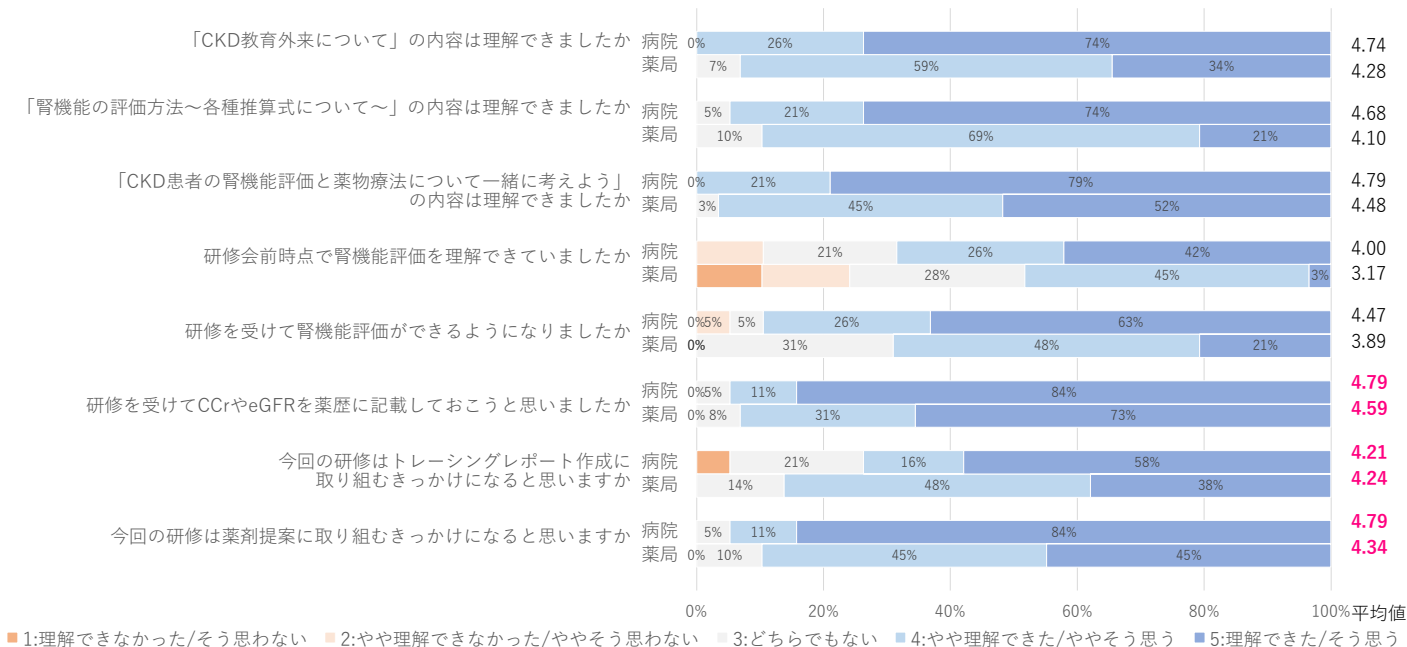


- ◆ 症例ディスカッションでは、参加者を6名ずつの班に分けてSGDを行い、各班より発表を行った。
- ◆ 研修会后、病院と保険薬局の薬剤師57名に対してGoogle フォームによるアンケート調査を実施した。（回答率84.2%）
- ◆ 回答は5段階のリッカート尺度(1:理解できなかった/そう思わない～5:理解できた/そう思う)を用いた。

	病院 n=19 (%)	薬局 n=29 (%)
勤務年数		
1～5年目	7 (36.8)	7 (24.1)
6～10年目	5 (26.3)	1 (3.4)
11年目～	7 (36.8)	21 (72.4)
腎機能評価のために必要な情報を患者に確認したことはありますか		
はい	16 (84.2)	27 (93.1)
いいえ	3 (15.8)	2 (6.9)
クレアチニンクリアランス(CCr)や個別化eGFRを算出していますか		
はい	19 (100)	12 (41.4)
いいえ	0 (0)	17 (58.6)
日常業務において腎機能評価を服薬指導や薬歴記載に使用していますか		
はい	18 (94.7)	22 (75.9)
いいえ	1 (5.3)	7 (24.1)
CCrやeGFRを入れておけば良かったと思うヒヤリの場面に立ち会ったことはありますか		
はい	8 (42.1)	9 (31.0)
いいえ	11 (57.9)	20 (69.0)

- 保険薬局薬剤師は病院薬剤師と比べ、CCrや個別化eGFRを算出している割合が低く、腎機能評価を活用できていない割合が高い。
- 研修前後での腎機能評価に対する理解度は、病院薬剤師で4.00→4.47($p \geq 0.05$)、保険薬局薬剤師で3.17→3.89($p < 0.05$)と向上しており、保険薬局薬剤師で有意差を認めた。
- 研修会で腎機能評価についての理解が深まり、今後の業務に対する意欲が高まったという回答は病院・保険薬局薬剤師いずれも4を上回った。
- 今回の研修会が今後の業務において有意義な内容であったとの回答は100%であった。

	病院 n=19 (%)	薬局 n=29 (%)
本日の研修会は今後の業務において有意義な内容でしたか		
はい	19 (100)	29 (100)
いいえ	0 (0)	0 (0)



考察・今後の展望

上記結果より、本研修は理解度向上に寄与しており、腎機能を適切に評価することで地域全体でより安全で質の高い薬物療法の提供に貢献できる可能性がある。特に保険薬局においては、Ccrや個別化eGFRを算出している薬剤師が少なかったが、研修会を受けて算出しようと思うようになるなど、今後の業務への活用が期待できる結果となっていることから、継続的に研修会を行うことで理解を深めていく必要がある。腎臓病薬物療法において、保険薬局の理解を深め積極的な介入を進める為にも、研修会の継続と処方せんへの採血結果記載の推進といった薬業連携の強化を図る必要がある。

第58回日本薬剤師会学術大会
利益相反の開示

演者名：近藤 一成

私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。